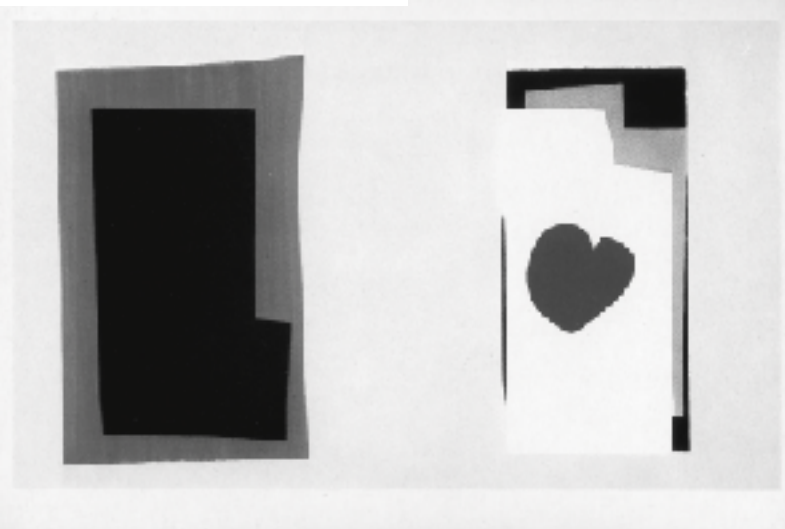


COLUMN

鎌倉の猫事情 第七十一話

鋭く照り付ける太陽に、全身全霊で抵抗するように最後の命を振り絞ってセミが激しく鳴いています。そしていずれ飛ぶ力を失くしたセミ達が空からばらばらと降ってきます。その年の夏にも、力尽きたセミが明かりのついた夜の窓へ飛び込んで来ていました。文字通り虫の息となったセミは我が家の猫達の格好の遊び相手です。家の中で退屈きっている猫達は逃げようにも羽ばたく力も方向感覚も失った可哀そうなセミをまるでキャッチボールでもするようにも遊ぶのです。猫達の爪にかかったセミの悲鳴が聞こえると慌てて飛んでいって、安全な場所へ連れ出してやるのですが、その年の夏は少し様子が違っていました。長い患いに苦しむグーニーにはそんな気力も元気もありませんでした。その頃のグーニーの家族は妻のスイーピーと、末娘のジュリーがまだ一緒に暮らしていましたが、彼女らも、なんとなく元気がありませんでした。ジュリーなどは表では元気に飛び回ってどこで捕ってくるのか、鳥をくわえて来ては最後まできれいに食べていましたが、家の中では神妙でした。グーニーの具合が良くないのはわかっていました。グーニーがさらに茶トラ猫の襲撃で深手を負い、獣医さんの治療を受けていたのは、もう秋の気配が深まった頃でした。主治医の先生に言われたように、もう二度と茶トラ猫の襲撃を受けないように、我が家のあちこちに『わな』をかける必要がありました。猫が気がつかないような『わな』・・・猫がここは何か危険だと感じるものが必要ですが、敵の前にうちの猫達がかかってしまうような気がします。まず手始めに猫達の出入り口になっている窓枠の周囲に両面テープを仕掛けました。この上を歩いたらべとべとして気持ち悪い、どうかしようとして右手、左手、と足を振り振り歩いて行く先には園芸用の棘棘があるマットが待ち構えており、これはダメだと敵がバランスを崩した足で向きを変えて引き返そうとすると、水の入ったバケツをひっくり返してずぶ濡れになり、動転した



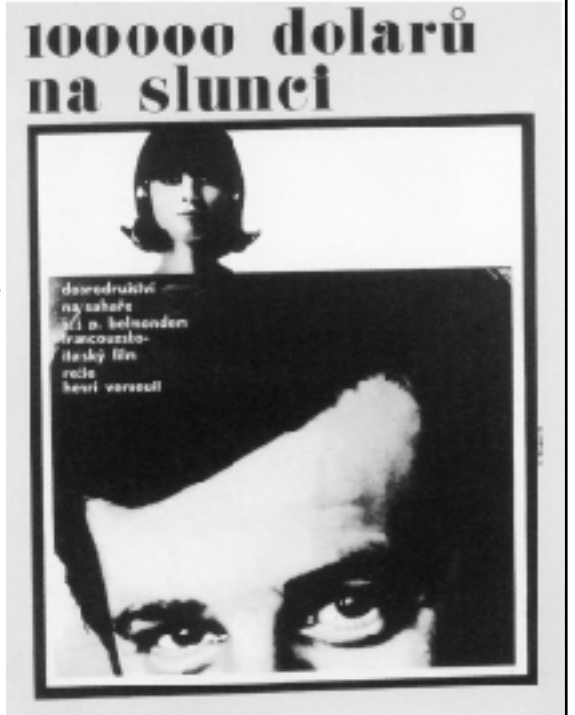
ところに、たまたまそこにあった空き缶の詰まったブリキ箱をひっくり返し、空き缶がトタン屋根をゴロンゴロンと転がり落ち、茶トラ猫も一緒に転がり落ちる・・・という筋書きでしたが、茶トラ猫どころか、毎日何度も出入りするうちの猫でさえ、わなの横をゆうゆうと通り過ぎて行く有様です。わなは完全に失敗でした。とりあえず警備と見回りを強化するしかありません。グーニーはもう、一刻の猶予もないほど弱っています。3日間ただ化膿止めの注射を打ちに通うだけで、足の腫れも引かず、食欲もなく、主治医の先生は、毎日グーニーの腫れ上がった足を指で押して診察されています。「この腫れが柔らかくなったら切開して膿みを取れるのですがね・・・」心なしか先生の言葉が自信無げに聞こえます。切開・・・手術・・・今だ傷の癒えない口の中の手術の悪夢が思い出されます。

to be continued

Portrait

少女の肖像

「そうしようかな・・・」
少女は、考えた。夏の名残りの強い日差しが、庭の木の影を濃く長く描いていた。少女は、いつも窓の中にいた。窓の中で座っていた。その四角い仕切りの向こうが、少女の世界の全てだった。この四角く切り取られた世界には、庭があり、一本の木があり、季節の全てがあり、そしてその向こうには長い塀があった。長い塀の向こうには・・・
「ずっと、という訳じゃないわ・・・」少女はいつも自身と会話している。そこにまるで他の誰かがちゃんというかのように、話しかけている。それは時々、頼みもしないのにうるさく話しかけてくる。「君は、この窓の中で、その椅子に腰掛けて、まるで額縁の中のお姫さま気取りだよ。ここは動かない絵の中にいるのと同じさ。可哀そうなお姫さま。さっさと椅子から立ち上がって出て行くがいいよ」少女は、長く伸びていく木の影を見つめていた。
「あの塀の向こうに何があるって言うの？ ことと変わらないに決まってる。でも・・・」少女は、ようやく決心し、椅子からすべりおちた。それからドアを開け、表に向かって走り出した。塀の向こうには、沢山の人が行き交っていた。どの人の顔も、明るく、その眼は輝いていた。少女は、自分では気付かなかったけれど、素晴らしく美しい少女だった。道行く人は皆、彼女を振り返り驚いたように微笑んでいた。その微笑がなんなのかわからなかったけれど、少女は高揚し、嬉しくなって飛び跳ねるように人の中を走り回った。
すると、人ごみの中から一人の男が現れて、少女の前に立ちふさがった。そしてポケットの中から小さな写真機を取り出した。「あ、やめて・・・」少女は、顔をおおったが間に合わなかった。少女の姿は写真機に納められ、男は現像したその美しい少女を額縁に入れ、部屋に飾った。少女は、またも動かない額縁の中に入ってしまった。そして男の部屋を悲しそうに眺めている。





HISTORY

場所の記憶 No.18

KAMAKURA ミルクホール その8 ルーツ

若い夫婦が鎌倉から中国を目指して旅立った頃、一人の若い看護婦が静かな農村伊豆韮山の地から同じ中国の青島へ向かっていた。戦争が何より優先された時代、ほとんどの日本人が貧困に苦しんでいました。若い看護婦は内地より条件の良い収入を少しでも家族の為に役立てようと、青島の病院に仕事を求めたのでした。1898年に青島を中心とした膠州湾の99年間の租借権を得たドイツは鉄道を敷き、軍隊を駐屯させ、極東ドイツの建設を始めました。その後1914年(大3)日本政府はドイツに対し、膠州湾租借地を要求。9月2日、日本軍は山東省青島のドイツ要塞攻撃を名目に山東省竜口に上陸を開始し、同年ついに日本軍は青島・膠州湾を占領したという経過のある町です。

その頃の青島はそれは美しい町だったそうです。港に望むドイツの建設した町並みに、日本人はアカシアの木を沢山植えたそうです。この異国の美しい町で看護婦となって働き始めた女性は、伊豆の田舎へ仕送りしながら暮らしていました。そして、ある時鎌倉からこの町に移り住んでいた夫婦が病院を訪れました。若い妻は結核に侵されていたのです。

次号へ続く



骨董・古陶磁 古民芸



CURIO

cu·ri·o
— n. (pl. ~s) 骨とう品
cu·ri·os·i·ty
— n. 好奇心; 珍奇なもの
curiosity shop 骨とう店

ミルクホールの珍品達

朝鮮の古瓦

この古瓦を見つけたのは、随分昔の事です。3つセットであつたうちの最後の一つです。この瓦に魅せられて、古瓦蒐集が始まりました。これは統一新羅時代の丸瓦、裏に『栗洞廢寺址』の文字が墨で書かれています。戦前に発掘されたものを誰かが日本に持ち帰り、庭に置いておいたようです。朝鮮にはない苔がついていました。

¥28000

アフガンの石仏

アフガンの石仏。ガンダーラ美術の流れを汲むものでしょうか。自然石のレリーフで、3体の仏様が彫られています。1体は顔の部分が欠けてしまっています。

¥30000

青銅 剣

石器時代と鉄器時代の間に、青銅器の時代がありました。短い時の間に様々な得意な文化を作り上げ、鉄器の出現と共に青銅器は用を終え消えていきました。紀元前に作られたこの剣は、刃が半分折れてしまっています。

¥23000



LIVE

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

ハーフムーンのライブで、
MILK HALLのBAR TIMEを
お楽しみください

by HALF MOON

琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

9/15 Sat. pm 7:30

Information

ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しております。
定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送いたします。
詳しくはミルクホールまで 年間購読料 **¥1500**

ミルクホールタイムス総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールにて販売中

No.001 ~ No.100
一部 **¥1800**

ミルクホールタイムス創刊号から100号まで全てを編集した、
ミルクホールタイムス総集編を発行致しました。
「鎌倉の猫事情」第一話から、また「ガラクタ通信」など、ミルクホール30年のあれこれが楽しめる本になっています。



.....ANTIQUES

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

大正時代の日本の和洋家具、
昔懐かしいもの、骨董、ガラクタなど
生活の中で役立つものを買ひやすい
価格で取り揃えています。
中には意外な掘り出し物も...

♠ 和洋家具

★★大正・昭和初期
家具・ケース

- ★★大正ガラス飾り棚
- ★★最上箆筒 明治時代
- ★★衣裳箆筒各種
- ★★大正時代水屋
- ★★昭和初期デスク
- ★★丸テーブル
- ★昭和30年代本立て各種
- ★ガラスケース
- ★★明治文机



♣ 古陶磁

- ★★★伊万里そば猪口
- ★★江戸中期薩摩水盤
- ★★平戸染付猪口
- ★★高麗青磁色々
- ★★宋白磁 笛他
- ★★明治瀬戸石皿
- ★★大正印判・色絵各種
- ★★明治銅版鉢・小皿
- ★★明治九谷絵皿・猪口

♣ 古民芸

- ★タイ製仏お守り
- ★★大正時代輪島塗
- ★★灯笼台 天燈器
- ★★鉄製獅子香炉
- ★アフガン石仏

◆ アンティーク

- ★★おもちゃのピアノ椅子つき
- ★★明治・大正の氷ガラス各種
- ★★昭和初期色ガラスショットグラス
- ★★昭和スタンドライト各種
- ★アンティークシェード各種

.....和の小もの.....

ミルクホールオリジナル 和の小もの
大正・昭和初期時代の絹の着物の布地を
素材に使った和の小もの色々です

✂ 半衿・帯揚げ

★★各種半衿 新入荷

半衿は、着物のコーディネートのポイント
です。半衿を替えてみるだけで、一枚の着
物の雰囲気さがらりと変わります。

鹿の子絞りや、ちり緋、お召し、銘仙など、
昔の着物をほどこいて半衿に仕立てました。
大正風にアレンジするなら銘仙など、
半衿で、自分流の着こなしをお試し下さい。

半襟 ¥800より 帯揚げ ¥800より

✂ 古布

使い方色々、長尺ものから、小さな端布の
アラカルトまで、様々な素材、色々なサイズ
の布を揃えています。

値段の目安は1メートルで1000円ほどです。
希少価値のある柄物は、少し割高です。

端布組み合わせ ¥300より
縮緬・銘仙など ¥1000/m

★ 着物・アンティーク古着

銘仙やお召しの大正・昭和初期の着物が入荷
しています。又、着易い紬や木綿など。

★★大正時代着物色々
夏物単衣・木綿緋・ゆかたなど
袷着物 紬・銘仙など

蚤の市

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

懐かしい時代の香り

日本の木の手触りを大切にしたい
ミルクホールの蚤の市

今回のミルクホールの蚤の市は、10月12日(金)夕方6時オープン!

10/12 ^{pm6:00} Fri. 14 Sun.

つくり帯
半衿・帯揚げ
くるみボタン
かんざし



✂ 帯・つくり帯

★ ミルクホールオリジナル 新作帯

大正・昭和初期の華やかな色柄の着物を解いて
ミルクホールの半幅帯を作りました。
表と裏の色合いを変えたり、右と左を柄違いにしたり
して作ってあります。結び方を変えると一本の帯
で違ったデザインが楽しめます。

★★大正・昭和初期名古屋帯
★半幅各種

着物は着るのが面倒なものです。
せめて帯くらいは簡単に結びたいもの。
お気に入りのつくり帯を1本持っている、着物
が身近になります。着物に慣れた人にもお勧め
します。

名古屋帯お仕立て ¥3000より

✂ かんざし

★ミルクホール製花のかんざし
花のかんざし ¥2500より
★ミルクホール製木のかんざし
木のかんざし ¥1800より



ささめや ゆき 作

材木座海岸 潮神楽

ささめや ゆき 観光絵はがき 潮神楽の絵です
春夏秋冬4種類 1部450円 販売中
ミルクホールの絵も入っています。